

令和5年3月19日

保護者の皆様

日向市立日知屋東小学校
校長 井川 尚幸

令和5年度の学校評価について

本年度実施しました児童・保護者及び教職員へのアンケート、教職員による自己評価書をもとに学校運営協議会委員を含めた学校関係者評価委員会を開きました。その結果は以下のとおりです。この結果は、次年度の教育活動の充実に活用してまいります。令和6年度も引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

【アンケート集約結果】

【評価】	4：よくできている	3：どちらかというできている
	2：どちらかというできていない	1：できていない

1 領域ごとの自己評価と関係者（領域ごとの総括評価）

領域	番号	項目	児童	保護者	職員	平均	関係者
徳育	1	自分から進んであいさつできる	3.4	3.0	2.6	3.0	3.0
	2	名前を呼ばれたらきちんと返事ができる	3.6	3.4	2.8	3.3	
	3	学校のきまりを守る	3.5	3.4	2.6	3.2	
	4	思いやりの心が育っている	3.7	3.4	2.8	3.3	
	5	子どもの長所を把握し伸ばしている	/	3.1	3.2	3.2	
体育	5	早寝・早起き・朝ご飯	3.3	3.0	2.8	3.0	3.1
	6	体力や運動能力	3.4	3.1	2.8	3.1	
知育	7	学習内容を理解している	3.4	3.0	2.8	3.1	3.1
	8	自宅学習をしている	3.5	3.0	3.1	3.2	
	9	進んで読書している	3.0	2.3	2.6	2.6	
小中連携	10	小中連携の推進	/	2.7	2.6	2.7	3.0
	11	めざす児童像にむけた取組	/	2.7	2.8	2.8	
学校	12	学校環境が整備されている	/	3.1	2.6	2.9	3.2
	13	文書や連絡のわかりやすさ	/	3.4	3.4	3.4	
	14	保護者の相談への対応	/	3.3	3.4	3.4	
PTA	15	PTA活動へ参加している	/	2.7	3.1	2.9	2.8
	16	地域行事等に参加している	/	/	/	/	
安心		明るく、あたたかく、安心できる学校	3.6	3.2	2.9	3.2	3.2

1 アンケート結果全般について

昨年度の結果と比べると、特に、教員の結果において昨年度よりも上向きの結果の項目が増えた。特に挨拶や返事については、あいさつ名人賞等の選考に地域の方の推薦を取り入れる等の工夫で学校外へもあいさつの輪が広がったと考える。また、新型コロナが第5類に分類され、コロナ禍以前の体育の時間の指導が行えるようになったことから体力の向上についての項目も上向きとなっている。しかしながら、児童の読書離れの傾向が見られ、児童、保護者、教員ともに値が下がっていた。

令和6年度も学校と家庭、地域が積極的に関わり合いながら、教育活動を展開していき、児童の健全な育成を目指したい。

2 児童の実態と今後の取組

◎ 児童や学校の様子・意見・課題等を含めて、ご意見やご要望の多かった内容

(1) 「あいさつ・返事、きまりを守る」について

〔児童の実態〕

- 登下校時に自ら気持ちよいあいさつができる子が多くなってきた。
- 学校や社会のルールを守っている児童が多い。しかしながら、ルール遵守する意識の低い児童も見られる。

〔今後の取組〕

- ※ 今後も教員以外に地域の方からのご意見もいただきあいさつ名人を選考し、自信をもってあいさつできる児童の育成に努める。
- ※ 学校と保護者、PTA、地域と連携し、地域での見守りを行うとともに、児童のよい姿を称賛し、意識を高める。
- ※ 年度当初に生活のきまりについての指導を行うとともに、継続的に指導する。

(2) 「体の健康および運動習慣」について

〔児童の実態〕

- 生活リズムの乱れからか、登校しぶり、遅刻、授業中に集中できない様子が見られる。
- 集団での遊びや体育の活動が制限なくなったことにより、元気に外で遊ぶ児童がふえた。

〔今後の取組〕

- ※ 今後も継続して、早寝・早起き・朝ご飯を呼びかけ、生活リズムを整えられるよう指導を行う。また、外部講師等活用し、メディアとの付き合い方を考えさせるとともに、家庭と連携し改善に努める。
- ※ 新型コロナの第5類への移行により、制限のない体育の授業が行えた。今後も縄跳び運動やボール遊びなど、昼休みの外遊びを推奨する。

(3) 「学習や読書」について

〔児童の実態〕

- 読み聞かせの再開により、本親しむ機会がつけられたが、進んで読書に取り組む児童が多いとはいえない状況である。
- 学力検査等において調査前から調査後、結果から問題に継続して取り組み、学力向上につなげることができたが、学習への取組には個人差が見られる。

〔今後の取組〕

- ※ 朝の読書の時間や家庭での読書の機会を設けていくとともに、ボランティアによる読み聞かせにより、本にふれる機会を設ける。図書室の環境整備を行い、子どもたちが興味をもちながら、落ち着いて読書を楽しめる環境づくりに努める。また、図書の魅力を発信し、図書に向かう子どもを育成する。
- ※ 授業では、分かる授業や魅力ある授業を目指し、指導力の向上を図るために授業づくりの研修会を行うことにより、教師が自信をもって学習指導を行えるようにする。また、家庭と連携し、家庭学習の習慣化にも取り組む。

(4) 「小中連携」について

〔学校の実態〕

- 富島中学校区の学校職員が対面で研修を行い、児童生徒の情報交換等行うことができた。
- 中学校区で児童生徒の意見発表会が開催された。学校と家庭、地域が一体となって子ども達の健全な育成を図ることの大切さを確認できた。

〔今後の取組〕

- ※ 富島中学校区の学校職員で授業づくり研修会を開き、指導力の向上を図る。
- ※ 学校便りやホームページ等で小学校と中学校が連携して行う活動や行事等について情報を発信し、小中連携による取組の成果等について周知に努める。

児童や保護者の方々のご協力により多くのご意見やご要望をいただくことができました。

本校のよさや課題について確認し、改善の方向性を明らかにできました。

今後、校内での協議・検討をもとに、改善策を見だし、学校と家庭、地域が一体となり、児童が安心して、楽しく、充実した学校生活を送れるよう取組を推進していきたいと思います。